

令和 5 年度  
支部事業報告

## 目 次

1	災害救護体制の充実・強化	1
2	健康・安全のための知識・技術の普及	10
3	青少年赤十字活動	12
4	国際活動	17
5	赤十字奉仕団による活動	20
6	赤十字思想の普及	27
7	赤十字活動資金の確保	32

## 1 災害救護体制の充実・強化

日本赤十字社が取り組む災害救護は、自らが達成すべき人道的任務です。

山口県支部では、頻発化・激甚化・広域化する災害に備え、常備救護班等や災害医療コーディネートチームを編成し、訓練や研修を行うとともに、必要な資器材の整備・更新を行うなど、災害救護体制の維持・強化を図りました。

### (1) 令和6年能登半島地震災害の対応

令和6年1月1日に石川県能登地方を震源に発生した令和6年能登半島地震では石川県能登地方周辺で震度6弱以上(志賀町、輪島町で最大震度7)の揺れや珠洲市や輪島市等の沿岸部では津波が押し寄せるなど北陸地方の各地で甚大な被害が発生しました。

日本赤十字社では発災当日から総力をあげて災害救護活動を行い、山口県支部でも医療救護班や日赤災害医療コーディネートチーム、こころのケア要員等を現地へ派遣するとともに、防災ボランティア等による支部支援活動が実施されました。

#### ①救護班等の派遣

派遣班	派遣数	派遣期間	派遣場所
医療救護班	第1班(9名)	1月18日～23日	七尾市、志賀町
	第2班(10名)	2月3日～7日	七尾市
	第3班(8名)	2月16日～20日	七尾市
日赤災害医療コーディネートチーム	第1チーム(3名)	1月25日～30日	能登町
	第2チーム(3名)	2月9日～14日	石川県庁
こころのケア要員	要員(1名)	1月25日～30日	七尾市
	要員(1名)	3月13日～19日	輪島市
	事務職(1名)	4月2日～8日	輪島市

#### ②支部活動支援

活動奉仕団	活動内容	活動期間	活動人数
山口県赤十字防災奉仕団	救護車両回収	3月7日～8日	3名
	救護資材の整理	2月21日	2名

## (2) 令和5年6月30日からの大雨災害の対応

6月30日の夜遅くから1日未明にかけて下関市や美祢市では1時間に100ミリを超える猛烈な雨を観測するなど、山口県西部・中部で大雨が降り美祢市、山口市では河川の増水による住宅浸水被害が発生しました。

山口県支部では、地区・分区による避難者への救援物資の配布を行うとともに、県赤十字防災奉仕団員が美祢市の浸水した住宅の家財の撤去などの活動を行いました。

### ①救援物資の配付

	美祢市地区	宇部市地区	山陽小野田市地区	合計
毛 布	248 枚	96 枚	—	344 枚
安眠セット	21 個	—	2 個	23 個
緊急セット	21 個	—	1 個	22 個
バスタオル	—	—	2 枚	2 枚

### ②防災ボランティア活動

派遣期間	派遣奉仕団
7月13日～15日	山口県赤十字防災奉仕団 延べ3人

## (3) 救護班の編成、救護員の訓練・研修の実施

### ①救護員の登録と救護班の編成

災害発生後、直ちに医療救護活動ができるよう、支部・施設から職員を救護員として登録するとともに、山口及び小野田赤十字病院に医師、看護師等による常備救護班8個班を編成しました。

【救護員の区分別登録者数および施設別救護班編成状況】(令和6年3月31日現在)(単位:人)

区分 施設	常備救護班 編成数	本部災害対策 要員	救護班要員						血液供給要員	本部支援要員	支部災害対策	合計
			医師	看護師長	看護師	主事	薬剤師	助産師				
支 部	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	9	
山口赤十字病院	6 個班	6	12	12	24	24	2	2	—	6	88	
小野田赤十字病院	2 個班	3	2	4	8	14	2	—	—	—	33	
血液センター	—	7	—	—	—	17	—	—	9	4	37	
合 計	8 個班	25	14	16	32	55	4	2	9	10	167	

【救護班 1 個班の編成基準】 (単位：人)

医師 (班長)	看護師長	看護師	主事 (事務)	計
1	1	2	2	6

※第 1 班には、薬剤師 1 名を加える。

②日赤災害医療コーディネーターチームの編成

大規模災害時の医療ニーズの把握や本社・支部の災害対策本部に対する助言、被災地自治体保健医療調整本部との連携・調整を図るための災害医療コーディネーターチームを山口及び小野田赤十字病院に 3 チーム編成しました。

施設名	コーディネーター (医師)	コーディネータースタッフ (看護師、薬剤師、事務職員)	チーム数
山口赤十字病院	3 名	6 名	2 チーム
小野田赤十字病院	1 名	3 名	1 チーム

③DMAT (災害派遣医療チーム) の編成

災害急性期 (概ね発災後 48 時間以内) に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームを山口赤十字病院に 2 チーム編成し、県内外で発生する災害に備えました。

施設名	チーム数	医師	看護師	業務調整員	合計
山口赤十字病院	2 チーム	2 名	6 名	4 名	12 名

④救護員の訓練・研修

赤十字の使命である災害救護活動を迅速かつ的確に実施するため、救護訓練への参加や救護員のための研修会を通じて救護知識の習得と技術の向上を図りました。

【災害救護訓練】

訓練名	開催月日	主催	会場	参加者数
山口県総合防災訓練	6 月 4 日	訓練実行委員会	萩市	5 名
救護員としての赤十字 看護師研修総合演習	11 月 21 日	日本赤十字社 山口県支部	日本赤十字社 山口県支部	15 名
日本赤十字社中国・四国各県 支部合同災害救護訓練	11 月 9 日 ～10 日	日本赤十字社 愛媛県支部	日本赤十字社 愛媛県支部ほか	9 名

訓練名	開催月日	主催	会場	参加者数
山口県地域保健医療福祉調整本部設置・運営訓練	1月30日	県健康福祉部 医療政策課	長門健康福祉 センター	1名
山口県支部災害救護訓練	中止	日本赤十字社 山口県支部	中止	—

【災害救護研修】

研修名	開催月日	主催	会場	参加者数
救護員登録研修	5月	日本赤十字社 山口県支部	オンライン	91名
救護員主事基礎研修	9月13日	日本赤十字社 山口県支部	日赤山口県支部	24名
日赤災害医療コーディネーター研修会	7月8日 ～9日 9月21日 ～22日	日本赤十字社	日本赤十字社 本社	各1名
救護員としての 赤十字看護師研修	2月～11月	山口・小野田 赤十字病院	日本赤十字社 山口県支部	15名
こころのケア指導者 養成研修会	10月11日 ～12日	日本赤十字社	日本赤十字社 本社	1名
原子力災害対応基礎研修会	12月4日 ～5日	日本赤十字社 徳島県支部	あわぎんホール	5名
全国赤十字救護班研修会	中止	日本赤十字社 広島県支部	中止	—
中国・四国ブロック 災害対策本部要員研修会	中止	日本赤十字社 鳥取県支部	中止	—
日赤災害医療コーディネーター フォローアップ研修会	中止	日本赤十字社	中止	—
こころのケア指導者フォロー アップ研修会	中止	日本赤十字社	中止	—

#### (4) 救護装備の整備

災害時等に迅速・的確に対応するための救護装備の維持管理・更新整備を行いました。令和5年度は、エアテント1張、発電機3台、投光器3台を整備しました。

#### 【救護用資機材保有数】

品 目	支 部	病 院	血液センター	合計
医療セット	2セット	2セット		4セット
パイプテント	8張			8張
ドラッシュテント	2張			2張
エアテント	2張	1張		3張
担架	20台	3台		23台
折畳寝台	33台	9台		42台
発電機	5台			5台
蓄電池	5台			5台
投光器	4台			4台
折畳テーブル	4台			4台
折畳ホワイトボード	2台			2台
個人線量計	28個			28個
サーベイメーター	1個			1個
NBC 除染セット	1セット			1セット
衛星電話	5台	2台	2台	9台
無線 (150MHz)	18台	6台	5台	29台
無線 (400MHz)	12台	4台		16台

#### 【救護用車両保有数】

車 両 種 別	支 部	山口赤十字病院	小野田赤十字病院	合計
救急車	1台	1台	1台	3台
災害救援車	7台	1台		8台
合計	8台	2台	1台	11台

## ○AEDの整備

地区・分区の要請に応じ公共施設等へAEDを設置しています。令和5年度も耐用年数を経過したAEDの更新整備を行いました。

【AEDの整備台数】(単位：台)

年度	H19～26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	合計
新規	125	6	7	7	1	0	0	0	1	0	147
更新	27	22	18	14	12	2	13	27	2	38	175

## (5) 救援物資の備蓄

赤十字では、災害の発生に備えて救援物資を備蓄しており、被災者へ速やかに配布できるよう、一部を地区・分区に分置しています。令和5年度も地区・分区の要請に応じて対応しました。

【備蓄数】

	毛布	緊急セット	安眠セット	バスタオル	タオルケット
地区分区	4,721枚	522セット	405セット	1,171枚	0枚
小野田赤十字病院	290枚	726セット	36セット	0枚	500枚
山口県支部	340枚	372セット	24セット	485枚	800枚
合計	5,351枚	1,620セット	465セット	1,656枚	1,300枚

## (6) 臨時救護

公式な式典、大会等に際して、参加される多くの人々の万が一に備えるために、令和5年度も救護員を派遣しました。

【実施内訳】

主催者等	回数 のべ日	主な行事名	主な派遣場所	のべ 派遣数
山口県	1回/3日	山口県南方地域戦没者 「防長英霊の塔」慰霊祭	沖縄県	1名
山陽小野田市	11回/11日	やけの美タフェスタ ほか	山陽小野田市	11名
独立行政法人高 齢・障害・求職者雇 用支援機構	1回/1日	アビリンピックやまぐち	山口市	1名
公益財団法人 山口県体育協会	2回/2日	やまぐち未来 アスリートチャレンジ	山口市	2名



主催者等	回数 のべ日	主な行事名	主な派遣場所	のべ 派遣数
一般財団法人山口 陸上競技協会	1回/1日	第52回全日本実業団ハーフ マラソン大会	山口市	1名
	1回/1日	山口県読売駅伝 2024		2名
山口青年会議所	1回/2日	青空天国いこいの広場	山口市	5名
山口県障害者スポ ーツ大会運営委員 会	1回/1日	全国障害者スポーツ大会 派遣選手選考委員会	山口市	3名
山口商工会議所	2回/3日	山口七夕ちょうちんまつり	山口市	3名
NHK山口放送局	1回/2日	学校音楽コンクール	山口市	2名
公益財団法人 山口県消防協会	1回/1日	山口県消防操法大会	山口市	1名
ツール・ド・しもの せき実行委員会	1回/1日	ツール・ド・しものせき 2023	下関市	5名
日赤山口県支部	2回/6日	青少年赤十字リーダーシップ・ トレーニング・センター	下関市 山口市	2名

### (7) 災害被災者支援

県内で災害等の被害にあわれた方々に対して、毛布・緊急セット・バスタオル等の救援物資を配布しました。また、災害により死亡された方のご遺族に対して弔慰金を交付しました。

#### 【配布数】

	毛 布	緊急セット	安眠セット	バスタオル
配 布 数	364 枚	36 セット	32 セット	21 枚

#### 【死亡者弔慰金】

件 数	交 付 金 額
12 件	240,000 円

### (8) 義援金の募集

国内の災害に際し、義援金を募集し、被災地の支部に送金しました。このうち令和5年6月30日からの大雨災害義援金は、山口県が設置した義援金配分委員会に送金しました。

義 援 金 区 分	件 数	金 額
令和5年5月能登地方地震災害義援金	28 件	288,329 円
令和5年台風第2号等大雨災害義援金	29 件	209,844 円
令和5年6月30日からの大雨災害義援金	324 件	87,567,828 円

義 援 金 区 分	件 数	金 額
令和 5 年 7 月 7 日からの大雨災害義援金	48 件	463,586 円
令和 5 年台風第 6 号災害義援金	14 件	134,469 円
令和 5 年台風第 13 号災害義援金	14 件	121,212 円
令和 6 年能登半島地震災害義援金	740 件	138,140,335 円
合 計	1,197 件	226,925,603 円

### (9) 防災・減災の普及・啓発

地域の防災に関する知識・意識の向上と自助・共助の力を高めていくことを目的に、赤十字防災セミナー等広く県民を対象とした防災・減災の知識・技術の普及に取り組みました。

#### ①赤十字防災セミナー・講習の実施

赤十字防災セミナー等の開催を希望する自治会、学校、企業等に対し、積極的にその要請に対応しました。

#### 【防災セミナー・講習の実施状況】

受講団体等	実施日	受講者数	講習内容
コープやまぐち理事会	6 月 6 日	16 人	家具安全対策ゲーム
岩国牛野谷さくらグループ	6 月 17 日	30 人	家具安全対策ゲーム
山口県青年（学生）赤十字奉仕団	7 月 17 日	18 人	家具安全対策ゲーム
岩国市民生委員児童委員福祉委員協議会	7 月 20 日	24 人	災害への備えについて
山口県日赤紺綬有功会、山口市民等	7 月 26 日	93 人	家具安全対策ゲーム
宇部市あかり園	7 月 26 日	30 人	災害への備えについて
災害ボランティアかがわ会員	8 月 4 日	30 人	家具安全対策ゲーム
山口県立山口総合支援学校生徒、教員	8 月 18 日	21 人	非常食の炊出し
周南市熊毛防災キャンプ参加者	8 月 26 日	33 人	非常食の炊出し 家具安全対策ゲーム
下関市赤十字奉仕団	8 月 28 日	15 人	非常食の炊出し
防府市赤十字奉仕団	9 月 5 日	20 人	災害への備え 家具安全対策ゲーム
吉敷つどいの広場楽楽楽	9 月 15 日	20 人	非常食の炊出し

受講団体等	実施日	受講者数	講習内容
柳地域住民	10月29日	40人	災害への備え 家具安全対策ゲーム
嘉川地域住民	11月3日	40人	家具安全対策ゲーム
介護福祉士等届出登録者等	11月8日	30人	避難生活支援講習 非常食の炊出し ロープワーク
下松市立下松小学校	11月8日	104人	大雨防災ワークショップ
西畑地区自治会、住民	11月25日	30人	非常食の炊出し 毛布ガウン 避難所で役立つ技術
鶴の島自治会婦人部	12月3日	20人	災害への備え
山口県赤十字奉仕団	12月7日	44人	ひなんじょたいけん
柳地区自治会防災委員、地域住民	12月10日	60人	非常食の炊出し 避難所で役立つ技術
山口県国際総合センターの入居テナント、下関市内の関係企業	1月23日	100人	家具安全対策ゲーム
下松市立下松小学校保護者	1月24日	40人	家具安全対策ゲーム
下関市赤十字奉仕団	2月5日	45人	非常食の炊出し
白石地域住民	3月3日	70人	非常食の炊出し 災害への備え
合 計	24回	993人	

## ②青少年赤十字加盟校との連携

青少年赤十字加盟校と連携して防災に関する公開授業（SDGs 防災教育プロジェクト）を実施しました。

学校名及び学年	内 容
山口市立小郡小学校4学年	大雨防災ワークショップ、避難所体験
山口市立白石中学校3学年	家具安全対策ゲーム、災害への備え

## ③赤十字防災セミナー等の実施体制の充実・強化

赤十字防災セミナーに新たに追加されたプログラムの指導法を指導員に伝達するため、防災奉仕団員を対象に研修会を実施しました。

研修名	実施時期	会 場	参加者数
第1回山口県赤十字防災奉仕団研修会	4月22日	日本赤十字社山口県支部	13名
第2回山口県赤十字防災奉仕団研修会	9月24日	日本赤十字社山口県支部	18名

## 2 健康・安全のための知識・技術の普及

日本赤十字社では、「人間の苦痛を予防・軽減し、生命の尊厳を確保する」という赤十字の理念を、具体的な知識や技術として一般の人々に広めることを目的として、『いのちを守る赤十字講習会』を開催しています。

令和5年度は、受講者10,000人を目標に講習会を開催しました。

### 《講習の種類と内容》

講習名	講習内容
救急法	基礎講習…心肺蘇生、AEDの使い方、気道異物除去 等 救急員養成講習…急病・けがの手当（止血・包帯・固定）、搬送 等
水上安全法	泳ぎの基本と自己保全、事故者の救助および応急手当、海・河川・湖沼での事故防止等
健康生活支援講習	誰もが迎える高齢期を、健やかに生きるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援・自立に役立つ介護技術等
幼児安全法	こどもに起こりやすい事故の予防と手当、こどもの病気と看病、こどもに対する心肺蘇生及びAEDの使い方等
家庭あんま術	病気の予防や疲労回復などの健康増進を目的とした、家庭でできるあんま術の知識と技術

### (1) 各種講習の実施

区 分	実施時期	実施回数	受講者数
救急法基礎講習	通年	14回	322人
救急法救急員養成講習会	通年	10回	234人
救急法基礎（夜間）講習	通年	282回	9,323人
救急法短期講習	8月～9月	1回	9人
水上安全法短期講習	7月、8月	8回	366人
健康生活支援員養成講習	6月、11月	2回	19人
幼児安全法短期講習	9月	1回	7人
家庭あんま術講習	通年	24回	434人
合 計		343回	10,734人

## (2) 講習普及指導員の育成・養成

講習普及指導員の資質の向上を図るため、研修会を実施しました。また、救急法指導員を養成する講習を実施し、指導員の確保に努めました。

### 【講習別指導員内訳】

区 分	人 数	令和5年度養成者数
救急法指導員	172名	3名
水上安全法指導員Ⅰ	5名	—
水上安全法指導員Ⅱ	20名	—
健康生活支援講習指導員	40名	—
幼児安全法指導員	69名	—

### 【講習指導員の育成】

研修名	実施時期	会 場	参加者
救急法指導員研修会	5月20日	山口県総合保健会館	68名
健康生活支援講習指導員研修会	9月3日	日本赤十字社山口県支部	19名
幼児安全法指導員研修会	9月3日	日本赤十字社山口県支部	30名

### 【救急法指導員養成講習会】

プログラム	日 程	養成者
事前説明会・研修会	11月25日	4名
養成講習	12月9日、10日、11日、17日、18日	3名
新任指導員研修会	1月12日	

## (3) 講師の養成

指導体制の充実を図るため、健康生活支援講習の講師を1名養成しました。

### 【講師在籍状況】(単位：人)

講習種別	養成者数	在籍数
救急法	—	5
健康生活支援講習	1	2
幼児安全法	—	2

### 3 青少年赤十字活動

赤十字精神に基づいて世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年を育成するため、学校教育の中で青少年赤十字活動が行われています。学校においてこの活動が活発に行われるよう加盟園・校の拡大を進めるとともに、指導体制の充実や青少年赤十字メンバーの資質の向上に努めました。

#### (1) 加盟園・校の拡大と活動の充実

##### ①加盟園・校の拡大

各市町での教員の集まる機会などに職員や賛助奉仕団員が訪問し、加盟促進を図りました。

区 分	令和4年度 加盟園・校	令和5年度			(参考) 令和5年度 JRC加盟率
		加盟園・校	新規	脱退等	
幼稚園	17園	17園	—	—	
保育園	2園	3園	1園	—	
小学校	96校	104校	10校	2校	38.2%
中学校	33校	32校	1校	2校	23.3%
高等学校	37校	35校	—	2校	48.6%
総合支援学校	1校	1校	—	—	8.3%
全 体	186園・校	192園・校	12園・校	6校	34.9%

※加盟率は、山口県内の学校数（令和5年度山口県教職員録より）を分母として算出

##### ②活動助成

県下の加盟園・校が青少年赤十字の実践目標「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」及び態度目標「気づき、考え、実行する」に基づく学校単位で行う地域活動・研修等に対して、開催経費の一部助成を行いました。

#### 【令和5年度の助成状況】

区 分	助成件数	区 分	助成件数
宿泊活動	36件	地域交流学习	2件
清掃活動	16件	保健活動	2件
野外体験学習	6件	防災学習	3件
緑化活動	3件	計	64件

## (2) 指導体制の充実

県教育委員会や加盟園・校の指導者で組織する指導者協議会の支援を得て、今後の活動充実と活性化を図るための会議・研修を行いました。また、日赤本社や他県が主催する協議会・研究会に指導者を派遣しました。

会議・研修名	実施時期	会 場	参加者数
山口県青少年赤十字高等学校指導者協議会 校長会	6月2日	かめ福オンプレイス	36名
山口県青少年赤十字幼保・小・中学校指導者協議会 園長・校長会	6月8日	山口県健康づくりセンター	76名
青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	6月30日	本社（東京）	2名
青少年赤十字指導者研修会	7月1日	広島県支部	3名
中国・四国ブロック青少年赤十字指導者協議会長並びに事務担当者会議	11月9日 ～10日	香川県高松市	3名
指導主事対象青少年赤十字研究会	1月12日	本社（東京）	1名
山口県青少年赤十字研修会	1月26日	(WEB開催)	105名

## (3) 青少年赤十字メンバーの資質の向上

各校や地域における青少年赤十字活動の中核となる児童・生徒のリーダーを養成しました。

### ① リーダーシップ・トレーニング・センター等の実施

令和5年度は、山口県支部主催のリーダーシップ・トレーニング・センターを小学校・高等学校は4年ぶりに2泊3日で開催しました。なお、中学校は台風接近に伴い中止となりました。

また、高等学校では、県を4地区に分け、その地区ごとに企画される地区トレーニング・センターが3地区で実施されました。

研 修 名	実施時期	会 場	参加者数
高等学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8月6日 ～8日	徳地青少年 自然の家	メンバー17名 指導者11名
中学校リーダーシップ・トレーニング・センター	中止		
小学校リーダーシップ・トレーニング・センター	8月2日 ～4日	下関ユース ホステル	メンバー27名 指導者11名
青少年赤十字スタディー・センター	3月22日 ～26日	本社	メンバー2名

研修名	実施時期	会場	参加者数
高等学校中部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	7月31日	高川学園高等学校	メンバー29名 指導者6名
高等学校東部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	中止		
高等学校南部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	8月1日	宇部市 総合福祉会館	メンバー40名 指導者5名
高等学校西部地区リーダーシップ・トレーニング・センター	5月21日	山口県立 豊浦高等学校	メンバー42名 指導者7名

## ②加盟園・校メンバーの活動

県下各園・校において、募金活動、清掃活動、野外活動など、新型コロナウイルスの感染防止対策を講じて様々な活動が行われました。

更に、高等学校では、県下加盟校全体で組織する協議会を中心に活動の企画・協議が行われ、今年度は「繋ぐ」を全体テーマとし、それぞれの学校で活動が行われました。

### 【高等学校メンバーの活動】

活動内容	実施時期	会場	対象・人数
世界赤十字デー県下一斉ボランティア・サービス (清掃、環境美化、福祉施設訪問活動等)	通年	県下加盟高校校区等	高校生徒 ・指導者 18校 443名
山口県高等学校 青少年赤十字学習交流会	8月22日	周南市 学び・交流プラザ	高校生徒 ・指導者 12校 50名
山口県高等学校 青少年赤十字協議会総会	9月9日	防長青年館 パルトピア山口	高校生徒 ・指導者 15校 48名
高校協議会新役員研修会	9月23日	KDDI 維新ホール	高校生徒 ・指導者 3校 12名



### ③ 赤十字講習・出前授業の実施

青少年赤十字メンバーの実践目標に向けた活動を支援するため、赤十字奉仕団の協力を得ながら赤十字講習や出前授業を行いました。

#### 【講習会】（再掲※）

講習内容	回数	人数（対象：児童・生徒、保護者、教職員等）
救急法	73回	1,609人
防災セミナー等	1回	104人

※P8.(9)「防災・減災の普及・啓発」、P10.(1)「各種講習の実施」の再掲(JRC加盟校分)

#### 【出前授業】

講習内容	回数	人数（対象：生徒）
いのちの尊さについて	1回	109人
JRCセミナー	8回	233人
人権・国際人道法	1回	14人
国際理解・親善	6回	263人
車椅子講習	1回	112人
高齢者疑似体験	2回	230人
令和6年能登半島地震講話	1回	375人
防災教育	1回	29人

### ④ 青少年赤十字 SDGs 防災学習プロジェクトの実施（再掲※）

学校の防災意識の向上と青少年赤十字メンバーの自助・共助の力を高めることを目的に、赤十字の防災知識・技術等を学習する公開授業を小中学校各1校で開催しました。

学校名及び学年	内容
山口市立小郡小学校4学年	大雨防災ワークショップ、避難所体験
山口市立白石中学校3学年	家具安全対策ゲーム、災害への備え

※P8.(9)「防災・減災の普及・啓発」、P9.②青少年赤十字加盟校との連携の再掲

### ⑤ 高校生オンラインセミナー

高等学校におけるJRC活動の活性化を目的に、赤十字事業の理解促進や社会課題を考えるセミナーをオンラインで実施し、多くの高校生メンバーが受講しました。

### 【高校生オンラインセミナー】

講習内容	回数	人数 (対象：生徒)
新メンバー研修	1回	69人
全国研修会参加報告	1回	52人
気候変動	3回	163人
インターネットについて	1回	40人
JRC 行事について	1回	21人
SDGs について	1回	72人
合計	8回	417人

#### (4) 国際交流事業

##### ①国際交流事業 JRC/RCY International Meeting

本社主催の国際交流事業で来日したタイ赤十字社所属のメンバー1名を受け入れ、県内高校生メンバー等との意見交換や文化交流、高校・小学校での学習交流を行いました。

また、全国の高校生メンバーとアジアの10の国と地域から来日した海外メンバーとの国際交流集会には、当支部から高校生メンバー1名が参加しました。

##### ○青少年赤十字国際交流事業（山口県内）

実施時期	内容	参加者
11月19日	環境問題の意見交換や文化交流	青奉団員 3名 高校生メンバー 5名
11月20日～22日	華陵高等学校での学習交流	華陵高等学校1学年
11月22日	下松市立東陽小学校での交流	東陽小学校5年生

##### ○JRC/RCY International Meeting 2023

実施時期	参加者
11月23日～26日	華陵高校 JRCメンバー1名

##### ②青少年赤十字海外支援事業（1円玉募金）

ネパールとバヌアツの衛生教育や防災教育などを中心に支援するため、「小学生メンバーたちが自分たちのお小遣いの中から出せる金額での奉仕」として、青少年赤十字海外支援事業（1円玉募金）を実施しました。

件数	金額
2件	8,818円

## 4 国際活動

日本赤十字社は、国際赤十字の有力な一員として、地域紛争や自然災害による犠牲者の救援や、発展途上国での保健衛生指導や防災・減災の取り組みなど国際・国内さまざまな活動を行っています。

令和5年度は、開発協力事業地の視察、発展途上国における保健衛生事業への資金援助、地域紛争や被災国を支援するための救援金募集等を行いました。

### (1) 開発協力事業地の視察

日本赤十字社が行っているルワンダ共和国での気候変動等に対するレジリエンス強化事業視察のため、本社の募集に応じて職員1名を派遣しました。視察先では現地住民との交流を通じて途上国の実態を学びました。

派遣期間	派遣先国	派遣人数
2月9日～19日	ルワンダ共和国	支部職員1名

### (2) 「アジア・大洋州 給水・衛生キット」支援事業

中国・四国各県支部との共同事業として、洪水やサイクロンなどの災害に際し、現地で給水・衛生活動が展開できるよう資金援助を行いました。

#### 【助成金額】

令和4年度	令和5年度	前年対比
901,980円	891,201円	98.8%

### (3) 海外救援金の募集

#### ①NHK海外たすけあい

1983年から日本赤十字社とNHKが共同で実施している募金キャンペーンで、海外の紛争や災害等で苦しんでいる人々を支援するために、令和5年度も12月1日から25日の間、募金の受付を行いました。

【受付件数および受付金額】

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
総 額	件数	1,494 件	1,568 件	2,498 件	1,476 件	
	金額	7,889,031 円	8,828,844 円	11,402,566 円	13,701,468 円	
内 訳	募金箱	件数	970 件	927 件	921 件	852 件
	街頭募金等	金額	924,167 円	1,050,735 円	1,113,774 円	5,896,936 円
	ダイレクト	件数	524 件	641 件	1,577 件	624 件
	メール	金額	6,964,864 円	7,778,109 円	10,288,792 円	7,804,532 円

②青少年赤十字海外支援事業（1円玉募金） 再掲※

ネパールとバヌアツの衛生教育や防災教育などを中心に支援するため、青少年赤十字加盟園・校へ「1円玉募金」の実施を呼びかけました。

件数	金 額
2 件	8,818 円

※P16.(4)「国際交流事業②」の再掲

③その他の救援金

世界各国の赤十字社・赤新月社を通じて被災国の赤十字社に寄せられる「海外救援金」は、国際赤十字機関や被災国の赤十字社が行う被災者支援活動に役立てられます。

令和5年度も国際赤十字機関や被災国赤十字社からの依頼に基づいた救援金を募集しました。

救 援 金 区 分	件数	金 額
2023年トルコ・シリア地震救援金	100 件	11,256,668 円
2023年アメリカ・ハワイ火災救援金	26 件	266,698 円
2023年モロッコ地震救援金	17 件	14,196 円
2023年リビア洪水救援金	8 件	6,725 円

救 援 金 区 分	件数	金 額
2023年アフガニスタン地震救援金	8件	7,561円
中東人道危機救援金	20件	42,093円
バングラデシュ南部避難民救援金	26件	108,370円
アフガニスタン人道危機救援金	24件	45,911円
ウクライナ人道危機救援金	252件	2,676,719円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	39件	82,034円
海外無指定救援金	2件	13,881円
合 計	522件	14,520,856円

## 5 赤十字奉仕団による活動

赤十字奉仕団は、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践するため、地域や活動分野ごとに結成されたボランティア組織であり、その活動は、赤十字運動の普及に欠かせないものです。

令和5年度は奉仕団活動の活性化に向けて、奉仕団相互の連携強化を図るとともに、地域づくりに取り組む奉仕団への支援をしました。

また、活動の中心となるボランティアリーダーの育成や団員相互の情報共有・連絡調整のための会議、団員の知識・技術の向上を図る各種研修会等を開催しました。

### 【山口県の奉仕団結成状況】

奉仕団の種類		団数	団員(登録者)数	特 色
地域奉仕団		41 団	7,271 名	主として、市町の婦人会組織等。一定の地域ごとに結成され、赤十字の思想普及、活動資金募集、災害時の救護活動支援等、地域に密着した活動を行っている。
青年（学生）奉仕団		3 団	72 名	青年や学生で組織され、献血推進や社会福祉施設の訪問等の活動を行っている。
特殊奉仕団	安全奉仕団	1 団	148 名	救急法・水上安全法・幼児安全法の指導員で結成され、県民の健康と安全を守るための講習会の指導を行っている。
	アマチュア無線奉仕団	1 団	89 名	アマチュア無線免許保有者で結成され、非常災害時において通信網を確保し、正確かつ迅速な情報の収集と伝達を行うことを目的に活動している。
	青少年赤十字賛助奉仕団	1 団	42 名	青少年赤十字活動の普及や加盟促進を目的に活動しており、青少年赤十字の指導経験者や、目標に賛同された方で組織されている。
	災害救護奉仕団	2 団	88 名	災害時に赤十字が実施する救護活動に協力することや、平時に防災思想の普及を図ることを目的に組織されている。
合 計		49 団	7,710 名	

### (1) 赤十字奉仕団相互の連携強化

#### ①赤十字奉仕団山口県支部委員会の開催

地域奉仕団、青年（学生）奉仕団、専門技能を持つ特殊奉仕団の委員長で構成される奉仕団支部委員会を開催し、情報交換や相互の連携強化に向けて意見交換を行いました。

名 称	実施時期	会 場	参加者
赤十字奉仕団山口県支部委員会	5月24日	日本赤十字社 山口県支部	7名

## ②赤十字奉仕団相互の連携

地域と密着した活動をしている地域奉仕団を中心に、青年（学生）奉仕団、専門技能を持つ特殊奉仕団が連携して赤十字事業を県内全域へ推進しました。

### 【奉仕団別の連携事業】

奉仕団名	地域奉仕団との連携事業
青年（学生）奉仕団	献血推進や社会福祉施設の訪問
安全奉仕団	県内全域での救急法等講習会指導・受講促進
アマチュア無線奉仕団	通信訓練及び県・市町防災訓練への参加
災害救護奉仕団	県内全域での防災講習会指導・防災減災意識の向上

## ③活動を通じた連携強化

研修会や支部主催事業に複数の奉仕団を参画させることで、奉仕団相互の連携を推進しました。

名称	内容	関係団
山口県青年（学生）赤十字奉仕団基礎研修会	被災者支援に関する知識と技術の習得	山口県青年赤十字奉仕団 山口県赤十字防災奉仕団
青少年赤十字 SDG s 防災学習プロジェクト	防災に関する知識と技術の普及	山口県赤十字奉仕団 山口県青少年赤十字賛助奉仕団 山口県赤十字防災奉仕団
山口県赤十字防災奉仕団中堅団員研修会	防災に関する知識の習得	山口県赤十字奉仕団 山口県赤十字防災奉仕団

## （２）ボランティアリーダーの育成

赤十字ボランティア活動の中心となるボランティアリーダーを育成し、活動の更なる充実・拡大を図りました。

### ○全奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
赤十字ボランティアリーダー研修会（地域、青年）	8月26日 ～28日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	2名

○防災奉仕団

研修名	実施時期	会場	参加者数
赤十字防災ボランティアリーダー養成研修会	9月2日 ～3日	(WEB開催)	1名
防災教育事業指導者フォローアップ研修	9月7日 ～8日	日本赤十字社大阪府支部	2名

(3) 会議・研修会等の開催

○全奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
支部赤十字奉仕団担当者会議	7月5日	(WEB開催)	支部職員1名
赤十字奉仕団中央委員会	6月1日 ～2日	本社	1名
赤十字奉仕団中央委員会常任委員会	12月1日	本社	1名

○地域奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字奉仕団委員長会議	6月27日	カリエンテ山口	46名

研修名	実施時期	会場	参加者数
中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会	11月14日 ～15日	日本赤十字社岡山県支部	3名
山口県赤十字奉仕団中堅団員研修会	12月7日	カリエンテ山口	44名

地域奉仕団では、主な活動として、5月の赤十字運動月間に合わせ、毎年県下一斉ボランティアを実施していますが、時期を限定せずに年間通して清掃活動や感染防止対策を講じた炊き出し訓練、地域ごとの研修会を行いました。

また、中堅団員研修会ではアレルギーに配慮したメニューと調理工程を考えるペアワークを行ったほか、赤十字防災セミナーの新カリキュラムである「ひなんじょたいけん」を体験しました。



○青年（学生）奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
令和 5 年度青年赤十字奉仕団全国協議会（第 1 回）	5 月 13 日	オンライン開催	団員 1 名
中国・四国ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会	6 月 25 日	オンライン開催	県青年奉仕団 委員長 1 名 団 員 1 名 支部職員 1 名
山口大学学生赤十字奉仕団年末総会	12 月 22 日	山口大学共通 23 番教室	27 名（委任状 16 名）
山口大学学生赤十字奉仕団新年総会	1 月 6 日	山口大学共通 24 番教室	33 名（委任状 26 名）
令和 5 年度青年赤十字奉仕団全国協議会（第 2 回）	2 月 23 日	オンライン開催	団員 1 名

研 修 名	実施時期	会 場	参加者数
山口県青年（学生）赤十字奉仕団新入団員研修会	6 月 11 日	日本赤十字社 山口県支部	18 名
山口県青年（学生）赤十字奉仕団基礎研修会	7 月 17 日	日本赤十字社 山口県支部	14 名
中国・四国ブロック青年赤十字奉仕団研修会	9 月 23 日 ～24 日	日本赤十字社 広島県支部	3 名
広山交流会	10 月 7 日 ～8 日	萩アクティビティ パーク他	13 名
山口県青年(学生)赤十字奉仕団リーダー研修会	2 月 10 日	日本赤十字社 山口県支部	6 名

例年実施している献血推進活動は学内・街頭献血の呼びかけを月 1 回程度実施しました。

○安全奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者
山口県赤十字安全奉仕団総会	5 月 20 日	山口県総合保健会館	68 名
救急法指導員研修会	5 月 20 日	山口県総合保健会館	68 名
健康生活支援講習指導員研修会	9 月 3 日	日本赤十字社山口県支部	3 名
幼児安全法指導員研修会	9 月 3 日	日本赤十字社山口県支部	22 名

会 議 名	実施時期	会 場	参加者
山口県赤十字安全奉仕団 役員会	3月30日	日本赤十字社山口県支部	13名

各講習会における安全奉仕団員の指導協力回数

講習区分	講習回数（団員協力／全講習数）	協力団員（実人数）
救急法	217回／306回	69名
水上安全法	8回／9回	13名
幼児安全法	16回／25回	7名

○アマチュア無線奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字アマチュア無線 奉仕団総会	4月9日	日本赤十字社 山口県支部	41名
山口県赤十字アマチュア無線 奉仕団役員会	3月16日	日本赤十字社 山口県支部	12名

研修名及びクラブ局運用	実施時期	会 場	参加者数
山口県赤十字アマチュア無線 奉仕団 研修会・クラブ局運用	4月9日	日本赤十字社 山口県支部	37名
山口県赤十字アマチュア無線 奉仕団 クラブ局運用	6月4日	萩市役所	15名

全国の赤十字アマチュア無線奉仕団との通信訓練を9回行いました。

○青少年赤十字賛助奉仕団

会 議 名	実施時期	会 場	参加者数
全国青少年赤十字賛助奉仕団 協議会総会	7月11日 ～12日	本社	1名
山口県青少年赤十字賛助奉仕団 総会	9月19日	日本赤十字社 山口県支部	8名
中国・四国ブロック青少年赤十字 賛助奉仕団連絡協議会・研修会	10月26日 ～27日	日本赤十字社 愛媛県支部	2名

各市・町校長会などでの加盟促進、加盟校での人権講和を行いました。

○災害救護奉仕団

会議名	実施時期	会場	参加者数
山口県赤十字防災奉仕団 役員会・総会	4月22日	日本赤十字社山口県支部	17名
第1回山口県赤十字防災奉 仕団研修会	4月22日	日本赤十字社山口県支部	13名
第2回山口県赤十字防災奉 仕団研修会	9月24日	日本赤十字社山口県支部	18名

防災講習における防災奉仕団員の指導協力回数

講習回数（団員協力／全講習数）	協力団員（延べ人数）
19回／22回	36名

（4）災害に対する奉仕団活動

①令和5年6月30日からの大雨災害

活動内容	実施時期	実施奉仕団	参加者数
浸水した住宅の家財撤去等	7月13日 ～15日	山口県赤十字防災奉仕団	1名

②令和6年能登半島地震

活動内容	実施時期	実施奉仕団	参加者数
救護車両の回収	3月7日 ～8日	山口県赤十字防災奉仕団	3名
救護資材の整理	2月21日	山口県赤十字防災奉仕団	2名
募金活動	1月13日 ～14日	山口県青年(学生)赤十字 奉仕団	7名
	1月29日	山口県赤十字防災奉仕団	2名
	2月4日	山口県赤十字防災奉仕団	2名
	2月24日	山口県赤十字防災奉仕団	2名
	3月	山口県赤十字奉仕団	各地域

※P1.(1)令和6年能登半島地震の対応「②支部活動支援」の再掲

#### (5) 地域づくりに取り組む奉仕団に対する活動支援

地域における赤十字活動の推進者である地域奉仕団の活動の拡充に向け、コロナ禍の影響で停滞した炊き出し訓練の再開や、地域で展開されている地域包括ケアシステムへの貢献など、地域貢献活動に取り組む奉仕団に対する活動助成制度を創設し活動を支援しました。

助成金名称	活用件数
炊き出し訓練等に関する助成金 (上限 5 万円 / 件)	1 件
地域包括ケアに関する助成金 (上限 1 万円 / 件)	3 件

## 6 赤十字思想の普及

日本赤十字社では、赤十字の普遍的な使命である人道的任務を達成するため、多くの人びとの温かい思いを結集して赤十字運動を推進しています。

当支部では、県民の皆様に、赤十字に共感し、支援いただけるよう、「赤十字運動月間」キャンペーンや広報活動、企業等とのタイアップによる社会貢献活動の普及等により赤十字思想の普及に取り組みました。

### (1) 「赤十字運動月間」キャンペーン

5月1日の創立記念日、5月8日の「世界赤十字デー」にちなんで、毎年5月を『赤十字運動月間』として、全国各地で国民の皆さまに赤十字活動の報告や継続的な協力をお願いしています。

キャンペーン期間中は、地区・分区を通じた広報誌の配布、レッド・ライトアップ・プロジェクトの実施、テレビ・ラジオなどのマスメディアを活用したPRなど赤十字活動の広報に努めました。

#### ① 「赤十字運動月間」における赤十字会員への加入の呼びかけ等

赤十字運動月間では、地区・分区や自治会長、奉仕団などにご協力いただき、赤十字会員募集のための資材等を地域の皆様へ配布し、赤十字会員への加入や活動資金への協力を呼びかけました。

#### 【会員の推移（協力会員除く）】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
個人会員	1,747人	1,719人	1,892人	1,916人
法人会員	1,437社	1,470社	1,659社	1,621社
会員合計	3,184人・社	3,189人・社	3,551人・社	3,537人・社

#### ② 「赤十字運動月間」PRポスターの作成

対外的に赤十字運動月間を広く周知するため、「認定こども園 野田学園幼稚園」の協力のもとPRポスターを作成し、期間中、県内のスーパーで展示しました。

#### ③ レッド・ライトアップ・プロジェクト

5月の赤十字運動月間に各地の公共・民間施設を赤色に灯す運動を全国一斉に実施しました。

#### 【県内のライトアップ実施施設】

協力先	場所	期間
山口県国際総合センター	海峡ゆめタワー	令和5年5月6日～8日

#### ④マスメディアによるPR

赤十字運動月間を広く県民に周知し支援をお願いするため、テレビや新聞、ラジオによる広報を実施しました。

##### 【テレビ】15秒CM

◆民放テレビ：山口放送、テレビ山口、山口朝日放送

##### ◆ケーブルテレビ

- ・アイキャン（岩国・和木・周防大島）、周防ケーブルネット（柳井）、
- ・Kビジョン（下松・光・平生・上関）、シティーケーブル周南（周南）、
- ・山口ケーブルテレビ（山口・防府・美祢）、Jコム下関（下関）、
- ・萩ケーブル（萩）、ほっちやTV（長門）

##### 【新聞広告】

山口新聞、宇部日報

##### 【ラジオ】

FM山口（Day Colors、Someday）

## （２）広報活動

### ①広報資材の作成・配布

県内全域へ赤十字活動の理解と協力を呼び掛けるため、広報誌「Sekijuji Yamaguchi」を年2回発行しました。今回から、読者の関心が高いテーマに焦点をあてた特集を組むなど、紙面構成を大幅にリニューアルしたほか、表紙も県内在住の人気イラストレーターを起用し、目を惹くデザインに変更しました。その結果、紙面内で実施のプレゼント企画では、応募数が前年から約10倍となる1,231件と大きな反響をいただきました。

また、配布先についても、県内の空港や商業施設など、多くの人が集まる施設に本誌を新たに設置いただき、読者層の拡大に繋がりました。

このほか、「JRCとびっく」や「奉仕団だより」も発行し、関係者および協力先へ配布しました。

広報資材名	発行時期	発行部数	配布・設置先
Sekijuji Yamaguchi 2023 秋号	令和5年10月	403,000部	各地区分区（原則各戸配布）、赤十字会員、講習受講者、赤十字サポーター他
Sekijuji Yamaguchi 2024 春号	令和6年3月	415,000部	各地区分区（原則各戸配布）、赤十字会員、講習受講者、赤十字サポーター他

J R C トピック	令和 6 年 3 月	1,500 部	J R C 加盟校他
奉仕団だより	令和 5 年 3 月	300 部	奉仕団員、各地区分区

## ②マスメディアを通じた情報発信

県内における赤十字活動を広く県民に知ってもらうため、プレスリリースを  
 発信してテレビ局や新聞社からの取材を促進し、報道へと繋げました。

### 【報道件数】

発信件数 68 件

テレビ	新聞
40 件	28 件

## ③ホームページ・SNSによる情報発信

主に若年層の支持者を増やすために、引き続きホームページとフェイスブッ  
 クで写真や動画を活用した目に見える活動報告を行いました。

## (3) 企業・団体とのタイアップによる社会貢献活動の普及

### ①赤十字サポーター

平成 25 年度から実施している赤十字サポーター制度では、法人の社会貢献  
 活動を促進するために、赤十字活動資金への継続的な支援と、企業・団体の事  
 業内容に沿った赤十字事業への協力という要件を満たした企業・団体を、赤十  
 字サポーターとして認定しています。令和 5 年度は、新たな認定が 2 法人あ  
 り、認定サポーターは 27 法人となりました。

### 【令和 5 年度赤十字サポーター認定法人】

社 名	所在地	認定日	支 援 協 力 内 容
三電	光市	11 月 1 日	赤十字活動資金の寄付
小野田商業開発	山陽小野田市	11 月 1 日	募金箱設置、保有施設での赤十字 広報協力、広報誌読者へのプレゼ ント提供

### ②レノファ山口とのパートナーシップ協定に基づく取組の充実

平成 28 年 3 月に締結したパートナーシップ協定の内容に基づき、令和 5 年  
 度は以下の相互協力を行いました。

【赤十字⇒レノファ】

実施項目	実施時期	備考（会場・内容等）
ホームゲーム救護所要員としてのボランティア救護員の派遣	2～10月	山口維新百年記念公園陸上競技場 赤十字病院の看護師等（延べ15人）
救急法講習会の実施	2月18日	レノファ山口FCのボランティア団体 「TeamBONDS」への救急法講習実施
広報協力	適時	保有施設でポスター等の掲示 広報誌読者へのプレゼント協力

【レノファ⇒赤十字】

実施項目	実施時期	備考
献血イベントの実施	5月22日 10月23日	受付人数：67人、400ml献血59名 受付人数：82人、400ml献血70名
広報協力	適時	保有施設でポスター等の掲示

（4）表彰

日本赤十字社の事業・活動に多大なご協力をいただいた個人・法人に対し、感謝の気持ちをお伝えするための表彰品をお渡ししました。

表彰区分		表彰基準	個人 (人)	法人 (社/団体)	合計 (社/団体)	
活動資金	社長感謝状	金色有功章受章後 (累計) 50万円以上	9	5	14	
	有功章	金色	(累計) 50万円以上	1	4	5
		銀色	(累計) 20万円以上	5	15	20
	支部長感謝状	(累計) 10万円以上	17	39	56	
	小計			32	63	95
献血者	有功章	金色	献血回数100回以上	68		68
		銀色	献血回数70回以上	119		119
	小計			187		187
合計			219	63	282	

（5）全国赤十字大会

令和5年5月18日（木）、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下及び名誉副総裁各妃殿下のご臨席のもと、「令和5年全国赤十字大会」が明治神宮会館（東京都）で開催されました。山口県支部からは、寄付者や奉仕団員など計23名が参会しました。



## (6) 国際人道法の普及

国際人道法は、紛争犠牲者の保護と、戦闘方法・兵器の規制のための国際的なルールです。ウクライナ人道危機やイスラエル・ガザ人道危機では、国際人道法に違反する行為が行われ、多くの犠牲者が出ています。

私たち日赤は国際人道法の推進機関の一員として、国際人道法の普及にこれまで以上に関心を払う必要があります。

令和5年度は、青少年赤十字のメンバー・指導者や地区区分担当者を対象とした研修会等の講演機会を活用して、国際人道法の普及に努めました。

受講団体	実施時期	参加者(人)
宇部商業高等学校	9月29日	5
山口市あすなろ第2教室	1月19日	22
地区区分担当者	2月21日	33
合計	3回	60

## 7 赤十字活動資金の確保

山口県支部の事業は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金がよりどころです。近年、少子高齢化が加速し、地域社会が変容していく中、活動資金の確保は大変厳しい状況にあります。

このため、地区・分区や奉仕団等との連携による自治会・町内会を基盤とした募集を軸にしつつ、法人へのダイレクトメールや企業訪問等による法人会員の掘り起こしなど法人対策を強化し、活動資金の確保に努めました。

### (1) 令和5年度の活動資金募集実績

少子高齢化や地域社会の変容などにより自治会等を基盤とした一般からの活動資金は減少しましたが、広報誌の配布先を拡大するなど、積極的に広報活動を展開することで、新規会員の獲得や高額寄付の確保に繋げ、5年連続で目標の2億円を超えることができました。

区 分	令和5年度目標	令和5年度実績	令和4年度実績	前年対比
一 般 (遺贈等除く)	180,000 千円	178,965 千円 (169,365 千円)	192,404 千円 (189,404 千円)	93.0% (89.4%)
法 人	20,000 千円	35,543 千円	27,793 千円	127.9%
合 計 (遺贈等除く)	200,000 千円	214,508 千円 (204,908 千円)	220,197 千円 (217,197 千円)	97.4% (94.3%)

### ○活動資金収入実績の推移

(単位：千円)

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般		246,094 (186,094)	224,521 (192,521)	245,590 (192,779)	192,404 (180,404)	178,965
内 訳	自治会	163,229	159,689	155,821	152,101	148,923
	大口寄付	60,000	32,000	52,811	12,000	0
	その他	22,865	32,832	36,958	28,303	30,042
法人		23,154	16,726	31,594 (21,594)	27,793	35,543 (25,543)
内 訳	D M	13,033	10,279	14,801	19,908	17,067
	大口寄付	0	0	10,000	0	10,000
	その他	10,121	6,447	6,793	7,885	8,476
合計		269,248 (209,249)	241,247 (209,247)	277,184 (214,373)	220,197 (208,197)	214,508 (204,508)

※ 大口寄付は、1,000万円以上の寄付のみを集計

※ ()内は、大口寄付を除いた実績

## (2) 一般対策

### ①地区分区との連携

令和5年度も赤十字運動月間での募集に先立って、地区・分区で開催される協賛委員会等に出席したほか、地区・分区担当職員や各自治会長様等の協力により、各地域で募集活動を推進しました。

#### 【地区・分区の協賛委員会等】

行 事 名	開 催 時 期
日本赤十字社下関市地区代表協賛委員・分区長合同会議	令和5年4月18日
日本赤十字社山陽小野田市協賛委員会総会	令和5年4月20日
日本赤十字社防府市地区協賛委員会春季定例総会	令和5年4月25日
令和5年度日本赤十字社萩・阿武地区協力員集会	令和5年7月21日
令和5年度日本赤十字社宇部市地区協賛委員会	令和6年2月14日

### ②広報誌を活用した募集

平成30年度から広報誌の秋号に振込用紙を付けて発行・配布しておりますが、2023秋号においても、多くの応諾をいただきました。

#### 【応諾実績】

年 度	件 数	金 額
令和4年度	200件	3,921,602円
令和5年度	350件	5,352,401円

## (3) 法人対策

### ①ダイレクトメールによる募集

例年、年3回(5月・9月・2月)のダイレクトメール発送により、過去に協力いただいた法人に対して活動資金の募集を行っています。令和5年度は、下表のと通りの応諾がありました。

また、2月の発送にあわせて、本社導入システムにより抽出した法人リストを活用のうえ、過去に依頼実績のない2,627社に対して、新たにDMを発送しました。

【募集状況】

	発送数	応諾数	応諾率	協力金額
5月発送分	1,564件	761件	48.66%	11,904,814円
9月発送分	3,023件	147件	4.86%	3,333,000円
2月発送分	641件	81件	12.64%	1,271,000円
新規発送分	2,627件	25件	0.95%	558,000円
合計	7,855件	1,014件	12.91%	17,066,814円

【発送対象】

発送月	発送対象
発送月	発送対象
5月	過去3年以内で1度でも納入のあった法人
9月	5月発送先の未応諾法人 及び 前年度新規発送先の未応諾法人
2月	5月発送先の未応諾法人

②訪問による募集

表彰対象法人など約100社に対して、表彰品、受領書を直接お届けして感謝の意をお伝えするとともに、赤十字事業について説明し、今後のさらなる協力をお願いしました。

(4) 多様な活動資金納入方法の周知

日赤では、窓口払いや銀行振り込み以外にも、口座振替やクレジットカード払い、コンビニ払い、ネット銀行決済等様々な協力方法を整えています。令和5年度も、広報誌やホームページ等で紹介し、活動資金への協力促進を図りました。

(5) 遺贈・相続による寄付の獲得

専門家に対して当支部が遺贈等の受付団体であることを周知するため、県内の税理士事務所および司法書士事務所へ広報誌を配布しました。

また、山口県司法書士会の共催による「遺贈・相続セミナー」を令和6年3月に宇部市で開催しました。